

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

新春のつどい

各地で新春のつどいが賑々しく開催される。

小禄3支部合同
新春ピクニック豊見城6支部合同
新春のつどい

退職のご挨拶



産婦人科
伊良波 肇

私は一身上の都合により2月末日をもちまして退職となりますのでご挨拶申し上げます。これを機会に沖縄医療生協との関わりを振り返ってみます。

医学部最終学年の時に沖縄医療生協の病院化計画を知り参加表明をしました。私の任務としては病院開設まで一般外科を研修し外科開設に参加することでした。外科研修は大阪民医連の耳原病院で3年間行いました。

沖縄協同病院建設後の1977年一般外科医師として赴任しました。その後病院の増床に伴い産婦人科も必要だとこのことで私が産婦人科医師獲得の担当者となりましたが医師獲得はなりませんでした。そこで当面私が産婦人科を研修することとなり母校の九州大学で約2年間の産婦人科研修を行いました。こうして1980年産婦人科を新設しました。当初2年間は1人体制でしたので休みも取れず大変でした。また現在のような携帯などの通信手段がなく帰宅しても外出ができない状態でした。2年目からは産婦人科2人体制となり、現在は女医6人と増員しており感無量の思いです。

もう一つの大きな関わりとして電子カルテの開発があります。沖縄協同病院で1999年から20年稼働している電子カルテは実は沖縄協同病院の独自開発であり私も開発に深く関わってきました。但し今後の開発継続については現在の医療情報分析室を中心に熟慮の上解決されんことを願っています。

沖縄医療生協組合員の皆様、職員の皆様長い間お世話になりました。

産婦人科 伊良波 肇

病院の活動状況 <2019年12月度>

- ・外来一日平均患者数：339人（前年同月比 +43人）
- ・入院一日平均患者数：291人（前年同月比 +25人）
- ・組合員利用分量(率)：54.7%（前年同月比 -5.2%）

唾液の働き

ひざ立場 (161) リハビリ室より



皆さんのお口は潤っていますか？ ここで質問です。一日どれくらいの唾液（つば）が出ていると思いますか？ 答えは、健康な成人で一日平均一～五リットルです。

唾液が少なくなるとむし歯や歯周病のリスクが高くなることはご存知でしょうか？ 唾液は、歯やお口に付着した食べかすや歯垢（歯の汚れ）を洗い流す自浄作用や、お口の中のPHを中和させ、むし歯を防ぐ作用、歯の表面を修復する再石化作用があります。唾液が減るとお口が汚れますく、むし歯や歯周病のリスクが高くなり、修復されにくくなります。

唾液の働きは他にもあります。味を感じたり、粘膜を保護、潤滑させる作用などがあり、唾液分泌量が減るとお口の不快感がでたり、口臭がきつくなったりもします。又、唾液には抗菌作用もあり唾液が減ると口腔カンジダにかかりやすくなり、舌痛や口内痛の原因になつたりもします。入れ歯が合わなくなる事もあります。

唾液が減る主な原因に水分の摂取量の低下や、お薬の副作用、お口の機能低下があげられます。しっかりと水分を摂り、歯ごたえのある物を食べ、ひとくち三十回を意識して噛む事。唾液腺マッサージや粘膜ブラシ（舌や頬などお口の粘膜を磨く歯ブラシ）でお口のマッサージを行うと唾液分泌促進になります。

唾液が減る事で下が才抜ついています。（粘膜ブラシは医療事務部で、お口を動かす効果があります。）

お口の潤いは大切な生活習慣です。より美しさを楽しめます。お口の乾燥が気になります。お口を味わう方、是非試してみてください。



寒さに負けずチーパッパ(つわぶき)



画・内科医 上原 和博

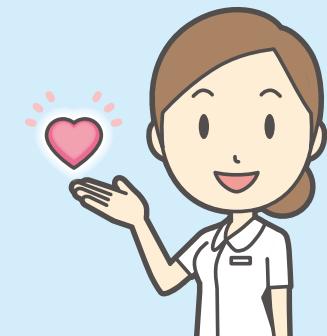


<ご意見・ご要望>

10月ICUで母がお世話になった際、意識がなくても音は聞こえていると、音楽好きな母に曲を流して頂いた看護師さんの対応が家族は嬉しかったです。

家族は何もしてあげられない中で、母に寄り添った対応がとても支えになりました。

ありがとうございました。



那覇美らさくらまつり

日程 令和2年2月8日(土)~9日

場所 漫湖公園古波蔵側中央噴水広場

那覇市古波蔵3-23-1

那覇市と豊見城市にまたがる広大な干潟、漫湖公園で開催される桜まつり。ステージイベントや出店を楽しみながら桜観賞ができます。

那覇美らさくらまつり実行委員会 ☎(098)853-3554



ばるの新緑の中で花の香りに酔いしれることが遠い過去の話にならないように自然は大事にしていくたい。

ハルサー 金城稻子

ハイノキ科は本州でも見られるが、アオバナハイノキは沖永良部島が北限だという。(温暖化で北限は曖昧になっているようだが)。ハイノキは燃やしても炭にならずに灰になるというのが名の由来だという。その灰には大量のアルミニウムが含まれていて、それが植物染料を纖維に定着させ、鮮やかに発色するので「媒染剤」として使われていたようだ。さて、カナダ、インドでは豪雪、日本は暖冬、オーストラリアでは森林火災で国土の七十%を煙が覆いつくし、本州の半分近くの面積(植物)が消失し、五億匹もの動物が犠牲になっているところ。温暖化は確実に進んでいるようだ。やん

う。初めて聞く名前だ。木の下に行くと甘い香りが一面に漂っている。やんばるの山の空気、風、新緑が脇役となり、忘れられない木となつた。

あれから二十年、先日、園芸店に入つたり、中央に薄紫の花がいっぱい咲いている木がある。吸い寄せられるように近づくとなんとあのアオバナハイノキではないか。昨日までは咲いていなかつたというのできつと私を待っていたのだろう。愛おしい花だ。

ハルサー だより⁽²⁴⁾

山道が苦にならない若いころ、やんばるの岩山を登つて眼下を見下ろすと新緑の中にボツリボツリと薄紫の花が咲いていた。桜の花の時期だが、花の色は

アオバナハイノキ